

## 平成27年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	安心して老いを迎えられる街づくり
事業主体 (連絡先)	特定非営利活動法人 新田の風 上田市中心北一丁目2-11 0268-75-7213
事業区分	(2) 保健、医療、福祉充実に関する事業 (4) 安全、安心な地域づくりに関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,056,888円 (うち支援金: 1,542,000円)

### 事業内容

- (1) 上田市新田地区区内設立の小規模多機能居宅介護施設と連携して、専門職(医師、薬剤師、福祉関係者)、自治会、地域住民等の支援を得ながら、家族を含めた地域全体で支える介護をコーディネート。
- (2) 地域住民のサポーター及びボランティアスタッフの育成。その為のレベルアップ講座、講習会の開催。(シニアコース、ハイレベルコース等設定)
- (3) 新田地区に、主に老人の集まるコミュニティ「老人サロン」的な交流施設を運用。
- (4) 子育て世代支援の為の活動。
- (5) 「だれでも住みたくなる新田」を目標に新田地区における地域で支えあう「絆」づくり全般。
- (6) 高齢者が自宅で暮らせるように住民が役割分担をして支援する仕組み…「新田モデル」を確立する。

これらを踏まえ27年度は、認知症対策事業、地域とのふれあい事業、小規模多機能居宅介護施設「新田の家」支援事業、北小との交流事業、エンディングノート作成・普及事業等各事業を各担当者が責任分担し事業展開した。

### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

◇今年度実施の4回講座2回実習のカリキュラムで実施した「認知症サポーター養成講座」の、受講者総数は延べ300人を越えた。最終的に全ての講座を終え、修了証授与者は46名に上り、実質的な新田の風認知症対策スタッフとしての登録。実践登録された。28年度は、27年度の「認知症シニアサポーター養成講座」受講者を更に新田区域外にも門戸を広げ、更なる教育及び組織化を企図する。

◇エンディングノート作成事業の一環として昨年度作成の「いのちの選択」が予想を超えて、人口に膾炙し、配布希望、レクチャー機会の設定希望が多く寄せられた。

試験的に実施したシンポジウム(会場を古刹海禅寺にて実施)も頗る好評で、「いのちの選択」の配布希望が様々な福祉関係団体から更に多く寄せられる結果となった。

更に増刷し、地域住民及び地域外においても無償にて配布中。

◇シンポジウムは当初予定より大幅に増設し実施。いずれのシンポジウムも様々な切り口で実施、頗る好評で、新田地区における「地域包括ケア」のコンセプトの理解、啓蒙に寄与したと考えている。



【講習会の様子】

### 【目標・ねらい】

- ① 高齢化社会に対する地域住民の連携の促進
- ② 介護、看取り難民に対して医師、薬局、自治会の連携による支援
- ③ 認知症サポーターの育成と見守りスタッフの組織化
- ④ 老人サロン、よろず相談所の開設・運営
- ⑤ 小・中学生へのサポーター養成講座の実施

### ※自己評価【A】

#### 【理由】

当初計画していた全ての事業が実施出来、持続的活動・運営へ着実に布石が打っている。

(別記様式第12号) (第3の8関係)

◇今年度半ばから、予定通り「ふれあいサロン風」として、現在毎週金曜日 10:00~16:00 の時間設定にて開設している。多くのご老人の文字通りふれあいの場として活用され、活況を呈している。近隣の保育園児の訪問等もあり、地域の活性化の象徴的存在となりつつある。28年度開設予定の「何でも相談所」とともに、新田の風の「誰でも住みたくなる新田」の絆づくりの一環として中核的存在となりつつある。

### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

次年度は①活動を新田地区のみならず、上田市、長野県と「新田モデル」の啓蒙活動を行い、普及・促進を行う。

②「ふれあいサロン風」と併設して「よろず相談所」の開設・運営を企図する。

③持続的活動を担保するため活動資金の永続的獲得のため、「認定NPO」資格を取得し、更なる活動の内容充実を図ってゆく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

総事業費 円、  
(うち支援金：円)